



第13回都市交通システム海外展開研究会

# ACUUS国際会議2025参加報告

2026年2月27日

都市地下空間活用研究会

森 功一 横塚雅実



1. 都市地下空間活用研究会の概要
2. ACUUSの概要
3. ACUUS国際会議の概要
4. 第19回ACUUS2025
5. イスタンブール、ベオグラード視察



# 1 都市地下空間活用研究会の概要

## ■目的

都市の有効で秩序ある地下空間の多面的な利用の在り方を、計画、技術、環境、制度など種々の視点から調査研究し、提言する。

## ■発足

1987年12月5日、任意団体として発足。

## ■体制

(一財)都市みらい推進機構に事務局を設置。

## ■会員

民間企業の正会員と特別会員（国・地方自治体等）、学識会員、研究会員により構成。

**正会員**（民間企業）…………… 21社

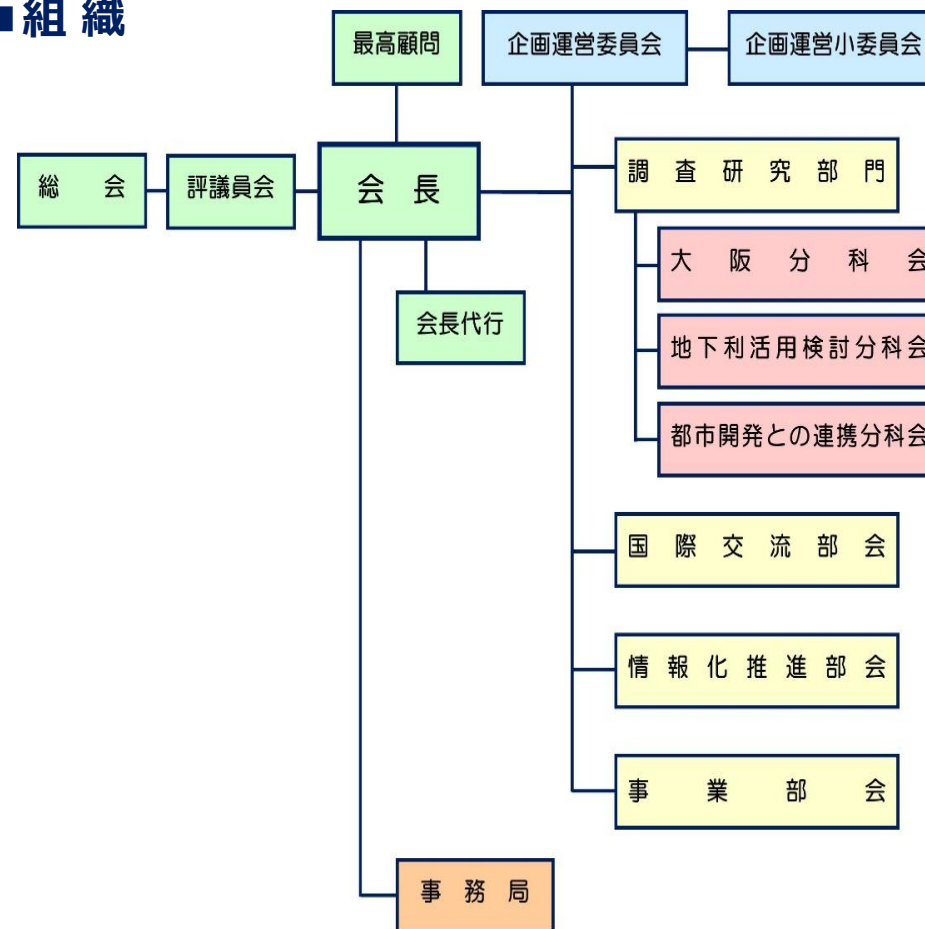
学識会員（学識経験者等）… 11名

**特別会員**（公共団体等）… 21機関

研究会員…………… 3名

計…………… 56会員

## ■組織



## ■調査研究活動

- ・大阪分科会
- ・地下利活用検討分科会
- ・都市開発との連携分科会



## 2 ACUUSの概要

### ■概要

ACUUS (the Associated Research Centers of the Urban Underground Space)は、都市の地下空間の研究、計画、開発、利用、管理の分野における専門家が集い、**地下空間を活用することで都市の課題に対処**しようとする国際的な非政府組織(NGO)。

当初は、各国の都市の地下空間に係る調査研究組織同士の協力から始まり、1992年の国際会議で伊藤滋先生を含む創設メンバーによって組織化が図られ、さらに現在の形のNGOになることについて、**伊藤滋先生を中心として1996年秋の仙台での会議で合意**がなされ、1998年からスタートした。その当初から**黒川洸先生が、理事、会長などを歴任され、尽力**された。

### ■会員

会員は、各国の大学や研究団体等の機関会員(17)と個人会員(28)。(2024.12現在)

日本の機関会員 都市地下空間活用研究会

日本の個人会員 11名 (2026.2現在)

### ■主な活動

- \* 国際イベント、隔年の**会議、展示会**、コンペその他の調整、企画および組織編成。
- \* 都市の地下空間に係る諸問題に関する国際的**学究・専門交流の組織化**。
- \* 都市の**地下開発に係る諸問題に関する協議**および地方、都市および地域の重要問題の把握とその適切な解決策。

### ■組織

会長 Sanja ZLATANIC (米国)

副会長 PENG Fang Le (中国)

理事 アジア・オセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、(各地区より2名以上3名以下) 現在計9名

岸井隆幸先生は2013年から理事

会員 機関会員、個人会員

事務局 **ベオクラード(セルビア 2026.12~)**

事務局長 Nemanja SIPETIC



# 3 ACUUS 国際会議

国際会議は概ね2年に一度開催されてきた。第1回は1983年8月にオーストラリア・シドニーで開かれ、日本では1991年に第4回が東京で行われた。今回で19回目を迎える。

なお、第17回は、コロナ禍のため開催が5か月遅れた上、オンラインでの開催となった。

次回の第20回は、南京（中国）で2027年に開催される予定。

地研は国際会議に派遣団を編成し、わが国からの情報提供や交流を行うとともに、開催国やその周辺国の地下利用の調査・視察を行っている。

回	年月	開催地	回	年月	開催地
1	1983年8月	シドニー	11	2007年9月	アテネ
2	1986年8月	ミネアポリス	12	2009年11月	深圳
3	1988年9月	上海	13	2012年11月	シンガポール
<b>4</b>	<b>1991年12月</b>	<b>東京</b>	14	2014年9月	ソウル
5	1992年8月	デルフト	15	2016年9月	サンクトペテルブルク
6	1995年9月	パリ	16	2018年11月	香港
7	1997年9月	モントリオール	17	2021年2月	ヘルシンキ（オンライン）
8	1999年9月	西安（以降ACUUSにて）	18	2023年11月	シンガポール
9	2002年11月	トリノ	<b>19</b>	<b>2025年11月</b>	<b>ベオグラード</b>
10	2005年1月	モスクワ	20	2027年11月	南京（予定）

# 4-1 第19回 ACUUS ベオグラード 2025 ①



## ACUUS BELGRADE 2025

### ■ 日程

2025年11月4日～7日

### ■ 会場

サヴァ・センター (Sava Center)

### ■ テーマ

Underground mobility and elevated thinking. New opportunities and challenges in the use of underground urban space.

#### 研究発表のサブテーマ

建築、地理空間及びデジタル技術、レジリエンスとサステナビリティ、プランニング、地下建設とインフラ、リスク・健康・安全、大深度工学、ケーススタディ

### ■ 参加者数

約500名 (主催者発表 会議開催前の見込み)



サヴァ・センター (Sava Center)



開会式会場

# 4-2 第19回 ACUUS ベオグラード 2025 ②



## ■ 研究発表等

日程 11/5~7

発表数 92件

発表の場所 会場内の4会議室

当研究会の派遣団から

**研究発表 7件**

パネルディスカッションでは、**岸井先生**が「日本における地下空間」と題して話題提供し、我が国における地下空間の多層的な計画の概要と、これまでに得た制度の継続についての教訓を紹介した。

また、**当研究会以外**から埼玉大学大学院理工学研究科の准教授 富樫陽太先生が「トンネル支保工の室内載荷試験」について発表した。



岸井隆幸先生(地下研会長)



廣瀬 健氏(一財)計量計画研究所



加藤 昌樹氏 (森ビル(株))



高峯 聡一郎氏 (国土交通省)



木山 和郎氏 (三井不動産エンジニアリング(株))



坪田 勇人氏 ((株)三菱地所設計)



大沢 昌玄先生 (日本大学)



吉野 建人氏 ((株)日建設計)

# 4-3 第19回 ACUUS ベオグラード 2025 ③



## ■年次総会

年次総会は、11月6日夕方に同センターで行われた。第5号議案の「新理事会および役員紹介」では、先の選挙で選出された9名の理事を総会で承認した。

更に、新たに会長、副会長、事務局長の3名をこの総会で承認し、新理事会が発足した。

## ■地下研の派遣団メンバー、行程等

(順不同・敬称略)			(順不同・敬称略)		
	企業・団体名	氏名		企業・団体名	氏名
1	都市地下空間活用研究会	岸井 隆幸	9	三菱地所(株)	高瀬 太郎
2	日本大学	大沢 昌玄	10	(株)三菱地所設計	栗林 茂吉
3	(一財)計量計画研究所	福本 大輔	11	(株)三菱地所設計	坪田 勇人
4	(一財)計量計画研究所	廣瀬 健	12	三井不動産エンジニアリング(株)	雨宮 克也
5	(株)日建設計	福田 太郎	13	三井不動産エンジニアリング(株)	木山 和郎
6	(株)日建設計	吉野 建人	14	森ビル(株)	加藤 昌樹
7	(株)復建エンジニアリング	吉川 ほのか	15	国土交通省	高峯 聡一郎
8	三菱地所(株)	上田 寛	16	都市地下空間活用研究会	横塚 雅実



地下研派遣団一同

月日(曜日)	内容
11月1日(土)	■空路、イスタンブールへ
11月2日(日)	■イスタンブール視察調査 地下宮殿、アヤソフィア、モスク、市場など
11月3日(月)	■イスタンブール海峡横断鉄道及び TOD型開発事業の視察 AVR Office (Selimiye)にて現地説明、意見交換、ガラタポート視察
11月4日(火)	■空路ベオグラードへ Welcome Cocktail Reception and Cruise
11月5日(水)	■「ACUUS国際会議」参加 開会式、キーノートスピーチ パネルディスカッション、研究発表
11月6日(木)	■ベオグラード市内視察 研究発表、年次総会、Gala dinner ceremony
11月7日(金)	■研究発表、閉会式 ベオグラード市内視察 新市街、旧市街
11月8日(土)	■ベオグラード市内調査(岸井先生 同行)ベオグラード中央駅 聖サワ大聖堂、Vukov spomenik駅、ベオグラード要塞ほか、空港へ
11月9日(日)	■空路にて日本に帰着

# 5-1 イスタンブール視察(公共交通機関)



多様な交通手段が導入されている

鉄道、地下鉄、トラム、BRT、フェリー、路線バス、ミニバス

## ■ MRT

(Mass Rapid Transit)

総延長 約38,000km

建設中 約 8,700km

計画総延長 約72,000km

(2025年11月現在)

市内利用一律35トルコリラ  
(約130円)

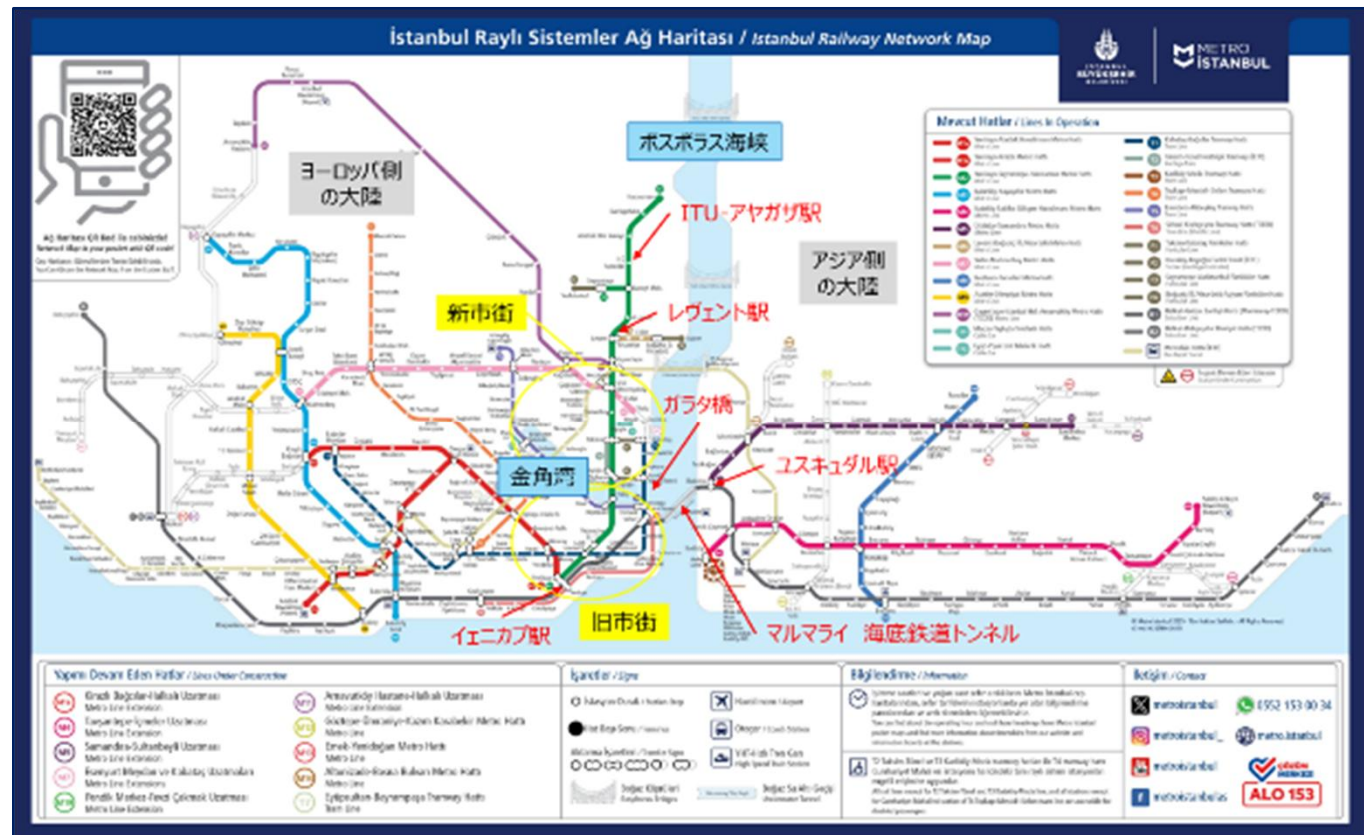
## ■ 視察した地下街、MRT駅

レヴェント駅

ITU-アヤザガ駅

イエニカプ駅

ユスキュダル駅



視察先の位置関係

## ■ 視察したMRT駅の特徴

ビュユクデレ大通りの直下、ビジネスセンター、ショッピングセンター、高級ホテルが立地。不動産価値が上昇し、魅力的な投資場所になったといわれる。

しかし、自動車交通の往来が非常に激しく車依存から脱していない。

# 5-2 イスタンブール視察(公共交通機関)

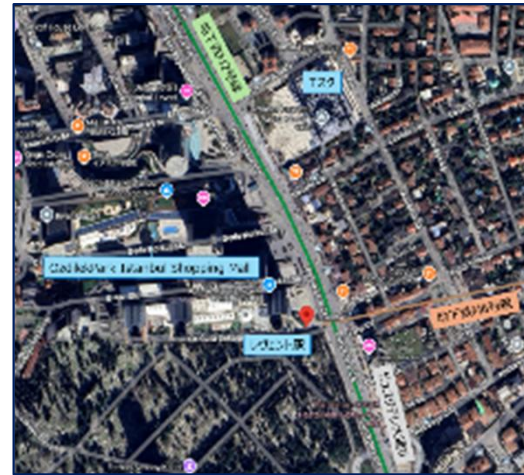


## ■レヴェント駅周辺

TOD的要素は、交通、商業、住宅の機能を効果的に統合している。

出口の一つは地下でÖzdilekPark Istanbul **Shopping Mall**と直結

「車に頼らず、公共交通機関の利用を前提に組み立てられた都市開発」とは異なる印象



レヴェント駅周辺



レヴェント駅周辺の高層ビル群



ITU-アヤザガ駅周辺



大学側から見たマ斯拉クの金融街

## ■ITU-アヤザガ駅周辺

レヴェントに次いで2番目に大きな金融街に位置している。

更に**イスタンブール工科大学 (ITU)**に直結。

TOD的要素は、生活・仕事・教育環境のミクスドユース。また多くの路線バス、ミニバスの発着点。



# 5-3 イスタンブール視察(公共交通機関)

## ■ イェニカプ駅

ボスポラス海峡を横断する海底鉄道の発着する駅。

フェリーターミナルとも徒歩圏内で**重要な交通結節点**。市内で珍しい路外駐車場も整備されている

自動車交通による渋滞と環境負荷を抑制する意図を感じる駅。



海底鉄道トンネル工事区間  
出典：大成建設HP



豪華な駅構内の装飾



ユスキュダル駅周辺を発着する多数の船舶



ユスキュダル駅のウォーターフロント

## ■ ユスキュダル駅

海底鉄道のアジア側の駅。ボスポラス海峡を横断する数多くの**フェリー**の発着場、多数の路線バス、ミニバスの発着点。

**周辺はウォーカーブルなウォーターフロント**として整備されている。。

しかし駅周辺は他の駅同様自動車交通量の多い地域で、16時ごろから道路は大変な混雑が始まっていた。

# 5-4 イスタンブール視察(公共交通機関)



## ■ ガラタポート

### Galataport Istanbul

#### 「世界初の地下クルーズターミナル」

オフィス・商業・宿泊・文化施設・文化遺産が融合した、革新的な大規模複合型ウォーターフロント開発

地域活性化を目的に港湾エリアの民営化を進め、同地の定期借地権を設定した再開発事業。

敷地面積 約110,000m<sup>2</sup>

総延床面積 約400,000m<sup>2</sup>

地下クルーズターミナル約250,000 m<sup>2</sup>

ホテル、オフィス、商業施設

各約50,000 m<sup>2</sup>

計画に配慮して最高でも4階程度に抑えられた低層建築群

2021年に地下クルーズターミナルが開業、その後商業施設・ホテルが順次オープン。2023年には借地期間が19年延長され、運営期間は2063年まで。



Galataport Istanbulの全様



運営会社からの説明



地下クルーズターミナル内部



クルーズ船発着ゾーンと各種施設

## 地下クルーズターミナル

地下クルーズターミナルは2層構造、地下1階が入国、地下2階が出国フロア。

セキュリティを要するターミナル機能と、地上の商業・ホテルなどパブリックな複合施設を両立させるため、この上下分離構造。

開発地全体を結ぶ地下車路も整備されている。



# 6-1 ベオグラード視察(公共交通機関)

ベオグラード市内でも**多様な公共交通**ができる。

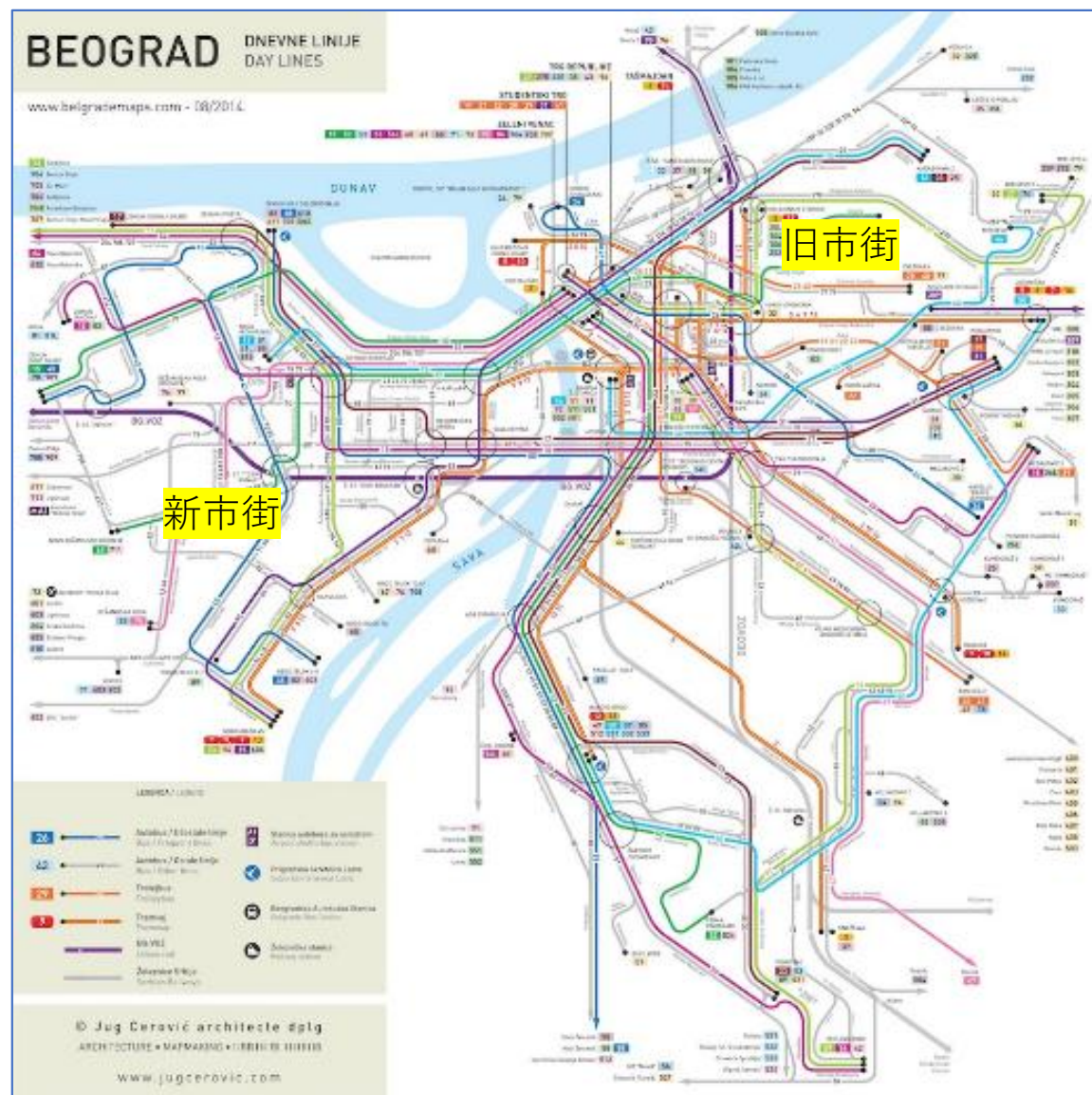
鉄道、バス・トラム（路面電車）・トロリーバス

しかし**地下鉄はまだない**。

2025年1月より**公共交通機関の運賃が無料**（ミニバスや空港行きのバス除く）となった。

Google Mapsの経路検索と各停留所のバス接近システムにより、トラムや路線バスがかなり便利に利用できる。

交通渋滞対策としての無料施策と聞いたが、**交通渋滞は依然として激しかった**。



(出所)<https://dorisai.hatenablog.com/entry/2019/09/29/150134>

# 6-2 ベオグラード視察(公共交通機関)



## ■ベオグラード地下鉄計画。

計画中の地下鉄である。資金不足により幾度にわたり頓挫、建設は始まっていない。

ユーゴスラビア社会主義連邦共和国時代の1950年代から「総合都市計画」として地下鉄構想は存在した。

1991年以降ユーゴスラビアは解体過程及び内戦に突入

1995年にはユーゴスラビア国鉄の都心部の2駅が地下化されている。



(出所)<https://transphoto.ru/photo/330985/>

1997年に地下鉄建設計画が再浮上するも、2000年には再び頓挫した。

2014年にはベオグラード市長がフランスの援助の下で2016年に着工する計画について言及した。

# 6-3 ベオグラード視察(公共交通機関)



## ■ 都市近郊鉄道。

「BG Voz」(セルビア語: Beovoz)

「ベオヴォズ」と呼ばれる都市近郊鉄道には4つの路線がある。

市の中心から見て北東および北西をU字に結ぶ**1号線**が地下鉄計画の**ベース**になっているとのこと。

BG Voz1号線のうち **Vukov Spomenik 駅**と **Karadžorđe公園駅**が地下化されている。



地下改札の空間



長いエスカレーター



ホームにある壁画彫刻

都市近郊鉄道の路線図  
(出所)ウィキペディア (Wikipedia) より



## 6-4 ベオグラード視察(公共交通機関)

### ■ベオグラード中央駅

2016年開業の新駅。国際列車対応の通過型の駅。ブタペストとイスタンブールの1000kmを約5時間で結ぶ計画。中国政府系銀行の融資で建設費を賄い、中国企業が建設。

改札を通るとエスカレーターで地下階のプラットフォームに降りていく。国鉄、近郊電車のBG Vozも停車する。5面10線のプラットフォーム。

駅前広場の計画はあるが、まだ手付かずだった。



ベオグラード中央駅



駅舎の大屋根空間



国鉄の新型車両



都市近郊鉄道の旧型車両



ブルータリズム的な住宅



新しいショッピングセンター

### ■ベオグラード新市街

サヴァ川を挟んで旧市街の向かい側。急速な発展が続いている地区。計画都市として整備され70のブロックがある。ブルータリズム的な建造物が残り、多くの色彩に欠く単調な街並みも。

# (参考) 都市地下空間活用研究会の役員名簿



最高顧問	東京大学 名誉教授	伊藤 滋
会長・評議員	一般財団法人計量計画研究所 代表理事 政策研究大学院大学 客員教授	岸井隆幸
会長代行・評議員	埼玉大学 名誉教授 日本大学 客員教授	久保田 尚
評議員	株式会社大林組	天野賢司
	鹿島建設株式会社	梅田慎介
	清水建設株式会社	山寺通隆
	新宿サブナード株式会社	廣田直人
	大成建設株式会社	原田憲雄
	鉄建建設株式会社	酒井喜市郎
	株式会社復建エンジニアリング	吉村 剛
	三井不動産エンジニアリング株式会社	雨宮克也
	三菱地所株式会社	井上俊幸
	東京都	長尾肇太
	独立行政法人都市再生機構	東 智徳
監 事	株式会社日建設計	木村 由布子
	東京地下鉄株式会社	藤沼 愛

# (参考) 都市地下空間活用研究会の会員名簿



■ 正会員		
大阪地下街株式会社	ジェイアール東日本コンサルタンツ株式会社	株式会社復建エンジニアリング
株式会社大林組	大成建設株式会社	丸の内熱供給株式会社
鹿島建設株式会社	株式会社竹中工務店	三菱地所株式会社
一般財団法人計量計画研究所	鉄建建設株式会社	株式会社三菱地所設計
清水建設株式会社	東京建物株式会社	三井不動産エンジニアリング株式会社
新宿サブナード株式会社	東京電力エナジーパートナー株式会社	メトロ開発株式会社
ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社	株式会社日建設計	森ビル株式会社
■ 特別会員		
国土交通省	阪神高速道路株式会社	名古屋市
株式会社日本政策投資銀行	東京地下鉄株式会社	京都市
独立行政法人都市再生機構	東京都	大阪市
一般社団法人日本プロジェクト産業協議会	札幌市	神戸市
東日本高速道路株式会社	千葉市	広島市
中日本高速道路株式会社	横浜市	北九州市
首都高速道路株式会社	川崎市	福岡市

# (参考) 都市地下空間活用研究会の会員名簿



## ■ 学識会員

東京大学 名誉教授	伊藤 滋	東京大学 名誉教授	渡辺 定夫
早稲田大学 名誉教授	浅野 光行	早稲田大学 名誉教授	尾島 俊雄
一般財団法人計量計画研究所 代表理事 政策研究大学院大学 客員教授	岸井 隆幸	埼玉大学 名誉教授 日本大学 客員教授	久保田 尚
東京海洋大学 名誉教授	高橋 洋二	株式会社グラフィック 技術部 顧問	西 淳二
早稲田大学 教授	森本 章倫	京都大学大学院 准教授	松中 亮治
日本大学 教授	大沢 昌玄		

## ■ 研究会員

NPO法人ジオテクチャーフォーラム 理事	西田 幸夫		阿部 健
	粕谷 太郎		

## UIT（アーバンインフラ・テクノロジー推進会議）の概要

目 的	産・学・官の交流等を通じて、アーバンインフラインフラストラクチャーおよびテクノロジーに関する啓発と技術開発の促進、その成果の都市づくりへの普及・活用により、高度で豊かな都市社会の実現に寄与することを目的としている。
設 立 等	1988（昭和63）年5月26日 任意団体として発足 地下研同様、（一財）都市みらい推進機構が事務局
会 員	120 内訳：正会員（民間企業：建設、設計・コンサル、デベロッパー、鉄道、エネルギー、製造など）23社 特別会員（国、自治体）73、（公的団体）13、（学識経験者）11名
会 長 等	会 長：高橋 洋二（東京海洋大学名誉教授） 副会長：羽藤 英二（東京大学大学院 教授）、中村 英夫（日本大学 教授） 最高顧問：伊藤 滋（東京大学名誉教授）

## UITの主な活動

### 技術研究発表会

アーバンインフラストラクチャーとテクノロジーに関する産業界、学識経験者、都市づくりに係る行政や団体等、産・学・官の皆様による学術と知識の交流を目的に、広く論文等を公募し、発表会を実施し、優秀なものに賞を授与している。また、発表された論文等はホームページで公開。さらに、2007年度からは、技術研究発表会（東京会場）で表彰された論文の発表等を行う「都市づくりについての技術研究発表と講演会」（大阪会場）も開催している。

### 展示会

パネル展示を主体にして技術研究発表会（東京会場）と同じ会場にて併催していたが、2020年度以降は技術研究発表会の特設サイト内において掲載することにより、展示内容を広く閲覧できるようにしている。

### 意見交換会

技術研究発表会などに合わせて、意見交換会を開催し、国土交通省都市局幹部や会員、技術研究発表会や講演会の参加者の方々との交流の場を設けている。

### 見学会・講演会

見学会は年数回程度開催。事業者や関係諸団体の協力のもと、事業説明、視察を実施している。講演会は年数回程度開催。学識経験者や実務家、国土交通省の幹部などを講師に実施している。

### 調査研究等

都市における情報通信インフラのあり方研究会、まちづくりに関する情報・意見交換会、全国都市再生モデル調査、大学・民間企業等が参加した「駅圏活性化プログラム」策定調査、街路整備イメージ、低炭素都市づくり研究会、官民連携まちづくり推進研究会、スマートシティ・ワーキンググループなど